

編集・発行



社会福祉法人
沖縄県社会福祉事業団

〒903-0804
那覇市首里石嶺町4丁目373番地1
TEL.098-884-3173(代)
FAX.098-882-5688

紺碧沖繩

第67号

メール o.fukusi@okinawa-j.jp ホームページ <http://www.okinawa-j.jp/>



改築したよみたん救護園（写真）

当事業団も平成18年度に県から12の社会福祉施設の移譲を受け、完全民営化して10年目に入りました。民営化当初は経営基盤の強化や人材確保の面で色々苦勞もありましたが、職員をはじめ関係各位のご理解とご協力のおかげで経営もほぼ順調に推移してきました。心よりお礼申し上げます。

民営化移行後、老朽化したあけぼの学園、漲水学園及びよみたん救護園の3施設の全面改築とあけぼの学園のグループホームを整備し、今年度はうるま婦人寮の改築を行います。これまでハード面の整備を図りながら施設利用者の皆様に対するサービスの質の向上にも法人挙げて取り組んできたところで、

今、施設から在宅へという国の制度改革の流れに対応すべく事務局及び各施設の中核職員を中心に人材育成にも力を入れ、合わせて事業団全体としての意識醸成を図っているところです。さらに今年度は管理者層の力量向上を図るための研修にも力を入れていく考えです。

このような中、今年度の介護報酬がトータルでマイナス2・27%という従来にない厳しい改定内容となり、今後の法人経営の厳しさが予想されます。また、去る2月に出された社会保障審議会福祉部会報告書にもあるように社会福祉法人に対する改革は今後も続くものと思われまます。当事業団も今年度はこれらのことを前提に事業展開をしていくこととなりますが、これを一つの契機として様々な改善努力をしていかなければと思っています。

これからも利用者の皆様や地域の皆様に必要とされる社会福祉法人を目指し、役職員一丸となって取り組んでまいりますので、引き続き関係各位のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



新年度理事長あいさつ

理事長 花城 可長
はなしろ かちろう

よみたん救護園改築を終えて



救護施設
よみたん救護園
管理課長 名嘉 克文

平成25年12月16日、花城理事長を始め法人関係者、ARG設計事務所、大米建設工事関係者等が揃い、当園グラウンドにて、厳かに全面改築へ向けての地鎮祭が執り行われました。その後昨年正月明けから本格的な工事が始まり、併せて、当施設でも改築へ向け職員による検討会議を再三開催しました。また、月2回開かれる工事関係者との工程会議及び備品購入に係る入札等慌ただしく1年が過ぎました。そして、昨年12月3日には、関係者のご協力の下、無事引越を済ませることができました。お陰様で今年のお正月は、



真新しい建物で迎えることができ、利用者、職員共々喜んでおります。この紙面をお借りし、多数の関係方々へ心より御礼申し上げます。

相談支援事業所あけぼのオープン



相談支援事業所あけぼの
相談支援 佐久田 政幸
専門員

平成26年12月1日、待望の相談支援事業所あけぼのがオープンしました。宮古厚生園居宅介護支援事業所と併設する形で、宮古厚生園敷地内に開設することができました。新築された建物は、オレンジ色の三角屋根が目印となっており、相談室も2部屋完備されており、トイレも車椅子利用者がゆつたりと使用できるように設計されています。



主な特徴として、居宅介護支援事業所と併設しているため、高齢や障害の枠にとらわれることなく相談していただき、サービス利用へスムーズに繋がることが最大の利点となっています。

また、宮古島市、他法人の相談支援事業所、病院等、ネットワークを密にしながら更にニーズに応えられる事業所でありたいと思います。

就労継続支援B型事業開設



障害者支援施設
北嶺学園
職業指導員 金城 篤史

1月より、就労継続支援B型事業を開設しました。事業内容は、障害のある方へ生産活動の機会を提供し、就労に必要な能力の向上をめざす訓練・支援を行います。定員は10名で陶芸室と木工室をリフォームして事業所の活動場所としました。

作業内容は、農耕園芸作業やリサイクル作業、次亜塩素酸精製水の製造・販売作業を行います。通所の利用者を受け入れるのは初めての事なので職員でどうしたら利用者に楽しく安全に作業提供ができるのか工夫や試行錯誤を重ねながらの毎日ですが、利用者

今現在は、サービス等利用計画作成に追われる毎日ですが、これまで支援員をさせて頂いた経験を活かしながら、利用者の課題ばかりに目を向けるのではなくその方の出来る事、ストレングスに着目した計画書作成をしています。

困ったときの相談窓口。「かまんいきばあ上等等どう(あの事業所に行けば安心だよ)」と地域の方に思ってもらえる相談支援事業所を目指しがんばりますのでこれからもよろしくお願います。

にוותて、就労に必要な能力の向上はもちろんです、働くことや社会と係わる事の楽しさを感じられるように心がけていきたいと思ひます。



平成26年度沖縄県社会福祉事業団実践活動発表会報告

実践活動発表の概要

平成27年1月23日ホテルロイヤルオリオンにて、当事業団の実践活動発表会が開催されました。各施設の日頃の実践成果を報告すると共に、職員の創意工夫力を高める事を目的とし、次のとおり発表が行われました。

- ①「児童家庭支援センターはりみずの活動について」
児童家庭支援センター はりみず 本位の支援のあり方」
- ②「日中活動の取組について」利用者 障害者支援施設 都屋の里
- ③「施設内の活動による生きがい作り」日中活動支給金の支給からみえてきたこと」
救護施設 いしみね救護園
- ④「八重山厚生園におけるNST立ち上げから現在の活動」多職種との連携」
養護・特別養護老人ホーム 八重山厚生園

実践活動発表を終えて



養護・特別養護老人ホーム 八重山厚生園
管理栄養士 比嘉 美記

八重山厚生園では、「多職種連携」をテーマに「NST栄養サポートチーム」を立ち上げ、現状と問題の把握、アンケートなどの取り組みを通じた活動について発表を行いました。

これまでも多職種連携の取組は行われていましたが、結果を出す事は難しく、課題の一つと考えていました。今回の活動を通し、価値観の違いや考え方の隔たりから衝突することもありましたが、メンバー一人一人が、真剣に取り組んでいる証であり、利用者の事を皆が第一に考えている事が良くわかりました。

短い期間での取組で内容は不十分な所もありましたが、NST活動はまだまだ始まったばかり。今後も、多様性を大切に充実させて行きたいと思えます。

法人あり方検討委員会について

事務局 企画課長 平良 里子

平成25年度より法人の総合的人材マネジメント構築の取組の一環として、各施設

設から中核的な役割を担う職員を選抜し、中核職員の能力向上研修を実施してきました。研修内容としては、国の福祉施策の動向や法人の現状についてコンサルタントから講師を招聘し理解を深めてきました。

さらに、この研修を受講する中核的職員を構成員とする「法人のあり方検討委員会」を新設し、研修受講後に受講者各々が今後の「法人のあり方」に関する報告書をまとめました。報告書は、理事長に提出するとともに、去る1月に、法人在り方検討委員会の構成員の中から6施設8人が実践活動発表会の場において、今後の法人の在り方についてのプレゼンテーションを行いました。報告の主な内容は、国の施策である地域包括ケアを中心とする在宅福祉の新規事業への参入、また人材育成の点から、職員の品質を確保するための仕組みの構築等の提言がありました。

中核的職員が1年半半学んできたことの中から、「今後の法人のあり方」に関する提言としてまとめられた内容を、事務局及び各施設において27年度からの事業計画に具体的に盛り込み、取組を実施していく予定です。施設中心の経営から在宅への事業展開に力を入れ、地域の拠点となる法人として、さらなる質の高いサービスを提供していく所存です。

法人あり方検討委員会からの提言



養護・特別養護老人ホーム 宮古厚生園
副園長 平良 吉昭

中核職員研修ではWJUの本間氏より、社会福祉事業として生き残りを賭けて「国の動向」・「人材の確保・育成」・「労務管理」・「事業戦略」等多角的な視点から、地域の医療・介護・福祉事業の将来の流れを読み解く力や手法について危機迫る講義を受けました。

法人あり方検討委員会では、中核職員研修で学んだことを基に今後の事業団のあり方として「地域で一番の施設を目指したい」との思いを形にするため、組織体制や事業戦略等について、新規事業計画を立案し発表することとなり、地域ニーズのマーケットインや取支シミュレーション等、不慣れた作業に苦慮する面もありました。

メンバー全員が研修で得たスキルを駆使しながら新規事業計画を作成し、発表まで出来たことにWJUの本間氏を中心とするスタッフへ感謝申し上げると共に、施設職員が力を合わせて地域で一番を目指して邁進していききたいと思います。



地域でゆいまーる(支えあい)

地域交流会



養護・特別養護老人ホーム
名護厚生園
介護員 与那覇 定晃

平成26年12月12日、待ちに待った地域の老人会とふれあいを目的とした「地域交流会」を行いました。

宮里区老人会の皆様と、園庭でのグランドゴルフを予定していましたが、悪天候により利用者の体調と安全面を考慮して室内での競技に変更、ミニボウリング・パターゴルフ・ペタンク（フランス発祥の球技）・輪投げゲームをすることにしました。

老人会の皆様と利用者との混合チームで編成し、慣れないゲームと初めて組むメンバーで少し戸惑い「出来ないよー」等と少し照れながら話す利用者も徐々に慣れ、次第に熱が入り積極的に参加する様になりました。



中でも一番盛り上がりを見せたのがミニボウリングです。ボールを転がすことにより、投げるコースを考えたり、真つ直ぐ転がせるように集中したり、「負けたくない」「もっと上手になりたい」と競技をとっても楽しんでる様子でした。

地域の老人会の皆様と楽しむ事で心身共に刺激を受けて普段とは違った利用者の笑顔を見ることができました。時間もあっという間に過ぎ「もっとやりたいさ」と声が聴かれる中、老人会の皆様に感謝しつつ交流会は終わりました。

交流会終了後、利用者が「楽しかった」と笑顔で話された時、私自身まで心が温かくなり利用者に気分転換できる機会がもっと増やせたらいいなと思いました。また介護に携わっている事にとってもやり甲斐を感じる事ができました。

名護厚生園の園庭は整備したばかりなのでそこで行うグランドゴルフはとても気持ちがいいと思います。次回は晴天の下、園庭で交流を図れたらと思います。

八重山厚生園の機能訓練

利用者の機能回復を 目指した取り組み



養護・特別養護老人ホーム
八重山厚生園
理学療法士 石垣 肇

利用者全員に、毎日個別にリハビリを行うには時間配分等から限界があります。そこで、利用者が残存機能を使えるような環境作りと、職員が介助しやすくなるように次の4つの事に取り組みました。

一つ目は、個々の状態に合った車いすの変更と介助バーの設置を行う事により協力動作を促す事で、残存機能の向上と維持を図りました。

二つ目は、食事が行い易いように、ボディーサポートやタオルを使い安定した座位保持の獲得を目指し、食べ物を取り易いように自助食器への変更などを実施。

三つ目は、短期利用者を含む全利用者にリハビリを実施する為に、個々の身体状況や必要性に応じて介入頻度を調整しています。



を設定し、関節可動域運動や基本動作・生活動作訓練を行っています。

四つ目は、短期利用者については、頻繁に利用する方でも、基本動作の介助量や食事形態、水分のトロミ等の把握が難しい為、個々の日常生活動作表を作成し、過剰介護の防止を図りました。また、誤嚥のリスクが高い場合は桃色の用紙を使用して注意が必要である事を一目で分かる様に工夫しています。

今後は、平行棒を導入して積極的に筋力トレーニングを行い、また、短期入所者への個別機能訓練制加算導入に向け力を入れ、さらには、NSTを通して生活リハビリへと繋げて行きたいと思えます。

機能訓練の変化について



養護・特別養護老人ホーム
八重山厚生園
准看護師 前新城 なをみ

施設は、病院と違い統一した指示系統が無い為、各職種が個々の業務に必死でサービス内容の方向性が定まらず情報の偏りがみられていました。栄養サポートチームを立ち上げ情報交換と共有をチームで行う事で利用者個々に合った支援が可能となり、残存機能を生かした環境作りをすることで、介助しやすくなった事を実感しています。



施設だより

児童福祉施設スポーツ大会に参加して

児童養護施設 漲水学園

児童指導員 かねしま あきと
兼島 章人



2月7日、県内児童福祉施設及び関係団体の入所児童によるスポーツ大会が東風平運動公園体育館で開催され、小学2年生から高校2年生の漲水学園女子児童13名がバスケットボール競技に参加してきました。「楽しく、チームワークを大切に」をスローガンに12月より練習を開始し、部活等で全員揃ったの練習は行えなかったものの児童全員が、個人目標・チーム目標を掲げ練習を行ってきました。

試合当日、予選リーグ2試合を戦い、危なげなく2勝し、決勝戦へとコマを進め、石嶺児童園との決勝戦では、23対9のスコアで目標にしていた優勝を勝ち取ることが出来ました。スポーツ大会に参加して、参加児童全員で、目標達成の為にチームワークを深めた事が、一番の大きな収穫でした。

充実した日中活動を目指して

障害者支援施設 都屋の里

介護員 おおしろ みちよ
大城 美智代



都屋の里では、日中活動として月2回のクッキングクラブを行っています。当初は月1回の活動でしたが、利用者さんからもっと増やしてほしいと要望があり月2回になりました。メニューは利用者さんから意見を聴きながら食べやすいように工夫し、季節に合わせた食材を用いて職員と共に談笑しながら楽しく調理しています。人気メニューは、たこ焼き・ホットケーキ・フレンチトースト・ヒラヤーチー等ですが、夏はかき氷が大人気です。又、毎週火曜日にはボランティアでオーストラリア出身のジェーン先生を講師としてお迎えし英会話クラブを行っています。英会話を学びながら実用英語検定を目指し、日々頑張ってきました。その結果、2人の利用者さんが検定に初挑戦で見事合格する事が出来ました。

日中活動を通して利用者が笑顔で楽しく生きがいのある園生活が送れるよう支援していきます。

爽やかな施設ライブ

救護施設 いしみな救護園

介護員 きんじょう たかし
金城 嘉



園の緋寒桜も残り僅かとなり、春の訪れが待ち遠しく感じます。やわらかな日差しの中、2月23日、いしみな救護園にてライブが開催されました。東京より、遠路はるばるお越しいただいたのは、「歌いながら『書』を彩るシンガー・ソングライター」友近890（やつくん）さんです。彼は、全国の様々な施設でライブを続け、現在約600カ所、3万人の方々には歌と書を披露しながら、笑顔をお届けしています。演奏はオリジナル曲から始まり、間には年齢にあわせた歌謡曲や沖縄ならではの「島唄」を熱唱し、最後は「夢」という文字を曲に合わせて筆を走らせるパフォーマンスで会場を盛り上げていました。

今回、利用者さんが真正面から歌とふれあい、元気に拍手や掛け声を行っていた事が、とても印象に残っています。本当に素敵な歌声ありがとうございました。

収穫祭(食育生産活動)

養護老人ホーム 具志川厚生園

生活相談員 きんじょう りいち
金城 利一



養護利用者は日々の日課の中で様々な活動を実践しています。その中で今回は農業生産活動の一環として実施している収穫祭(食育生産活動)を紹介します。屋外の農園で四季折々の野菜を利用者が植えつけ肥培管理等を行い、日々の給食材料として提供し利用者に喜ばれています。

今回の収穫祭は、キャベツを材料とした「お好み焼き」を利用者各々が役割分担に沿って調理しました。女性利用者は手際よく作業をされ、男性利用者に調理方法を助言する場面も見られ和やかな雰囲気で行われました。出来上がったお好み焼きはおやつとして養護利用者に提供され、「美味しい、有難う」と、生産した利用者や利用者側から一面も見られました。今後も利用者の生き甲斐づくりの一助となるよう努めてまいります。



施設長リレーエッセイ

「ふるさと」



婦人保護施設
うるま婦人寮
寮長 上間 久規

私は前方に屋我地島左前方に古宇利大橋が望める風光明媚な今帰仁村の運天で生まれた。運天の港は源為朝公渡来伝説でよく知られている。運天という地名の由来は源為朝公が1156年の保元の乱に敗れ、伊豆大島に流刑となり、さらに、伊豆大島から航海の途中に暴風雨に遭い、運を天に任せて航行していたところ、運天に辿り着いたために、到着した場所に「運天」という地名が付いたと言われている。

現在は子供が皆無に近い高齢化した20数世帯の海拔1メートル程度の集落である。

1960年5月24日の早朝に来襲したチリ地震津波で鳴り響く鐘の音で起こされた10歳の小生は必死に山手の方に逃げた記憶がある。その津波による被害は旧屋我地村では屋我地大橋が崩壊する等甚大な被害を及ぼしたが、当地は床上浸水程度で特に目立った被害は出ていなかったと記憶している。

その後、石灰岩を積み上げてでき

た護岸もコンクリート造りの頑丈な物に代わっているが、数メートル以上の津波被害を防げるほど高くはない。

沖縄県社会福祉協議会（施設団体福祉部）が平成26年6月から7月に実施した「災害時における社会福祉施設等の相互支援に関するアンケート」の調査結果から、県内社会福祉施設・事業所において、震度5以上とする地震や大型台風等に伴う被害を想定した「災害対応マニュアル及び体制の策定」は8割の施設が行っているとの結果がでた。予想以上の整備率と感じた。

入所施設である本施設は、改築を予定しているが津波に対する備えは十分とは言えない。そのような状況から近隣住民や消防団等地域ネットワークからの応援体制の取り組みも含め、災害対応マニュアルの策定と災害訓練が急務だと痛感している。



65年前の運天港にて

職員の語り

※私の楽しみ



医療型障害児入所施設
沖縄療育園
理学療法士 大城 知佳

私は器用ではありませんが、モノづくりをすることが好きです。

琉球びんがた体験教室に通ったり、布絵本や小物を作ったりします。完成して子どもたちの喜ぶ姿を見るのも楽しみの一つです。

また、職場の皆で「くまモン」を作って行事へ参加したり、PTとしては試行錯誤を重ねて個々の利用者のクッション等も作ります。それを病棟職員がうまく使用し、利用者がよりリラックスして過ごしている様子を見ると安堵し、原動力にもなります。みんなの笑顔のために、これからも素敵なモノづくりを続けていきたいです。



※笑顔あふれるお昼のひととき



事務局
事務員 譜久原 園子

お昼のチャイムとともに、職員皆でセン

ターテーブルを囲み、昼食時間がはじまります。この45分の休憩時間が私にとって1日の大切なリフレッシュタイムであり、人生観の学びの場となっています。飛び交う会話は日々さまざまです。好きな食べ物、嫌いな食べ物といった嗜好の話から、家庭の話、男女間の話など、時には軽く、時には深く、思いや意見、議論が交わされます。新たな気づきと笑いに満ちたあつという間の楽しいひと時です。



※Let's go Fishing



障害者支援施設
あけぼの学園
介護員 前泊 秀斗

昨年4月に、あけぼの学園へ転勤し1年。地元宮古島への転勤で、同僚の「釣りに行きましょう」の一言から、僕の釣りへの情熱が再燃しました。沖縄本島では殆ど行く事はありませんでしたが、元々学生時代熱中していた事もあり、久しぶりに体感する魚のかけひきに胸がわくわく！手にした魚を見て思わず雄叫びをあげてしまいました。今は



暇さえあれば海へ通う毎日。いつか息子と一緒に釣り糸を垂らすのが現在の密かな夢です。

退職者の声



いしみなね 救護園
園長 竹田 陽一

昭和54年首里厚生園救護課に採用され、いし救の民間法人への経営委託時に、事業団の素晴らしい職員の方たちと一緒に仕事をした事が事業団へ転職するきっかけでした。

大学を出て36年間福祉の仕事に携わりました。印象に残っていることは、平成12年の介護保険制度施行に伴い社会福祉法人会計基準への移行と県立福祉施設の事業団への経営譲受に伴う施設の新規開設申請があります。また平成19年に念願の居宅介護支援事業所、訪問介護事業所が開設出来たこともあります。どちらも、施設の職員及び県職員の皆様からの力強いご協力が頂けました。当時の担当職員として心から感謝しております。

分かれ道は、何度かありましたが将来を見つめ、行動してきたつもりです。長い間ありがとうございました。



養護・特別養護老人ホーム
名護厚生園
園長 宮里 淳

私は、昭和57年から約33年間福祉施設職員として従事してきましたが沖縄療育園での非常勤職員としての体験



救護施設
いしみなね 救護園
管理課長 新里 健

が私の人生を大きく左右し、福祉の道に進むことになりました。その後他の法人で27年間にお世話になり、平成22年からの5年間を沖縄県社会福祉事業団の一員として名護厚生園で勤務させていただき、皆様の理解と協力で大過なく職責を果たせ、定年を迎えることができ心から感謝申し上げます。次年度からは2025年に向けて社会保障制度改革が推進され、厳しい時代を迎えますが、職員一丸となって立ち向かい、地域から信頼される法人を目指して下さい。今後の事業団の発展をお祈りします。

昭和57年12月6日沖縄療育園に配属され介護技術も全く知らない素人が介護を行い利用者様には大変ご迷惑をかけた。5施設を経験することにより、利用者や職員、ご家族と関わる中いろいろなことを学び経験させてもらい、よい支援ができるよう自分なりに努力してきたつもりですが、支援がいきとどかなく、ご迷惑をかけたことも多々ありましたが、利用者さんの笑顔でありがとうの言葉に何度も励まされ、ここまで続けることができました。32年余り事業団で働かせていただき感謝



養護・特別養護老人ホーム
貝志川厚生園
事務員 上原 邦子

謝していただきます。これまで勤められてきたことは、諸先輩方の御指導と、後輩に支えられてきたおかげだと思っております。最後に法人の在り方検討委員会の優秀な職員が今後事業団を背負って行くことで明るい夢のある事業団であることを願い、皆様方の御活躍を心から願っています。

私が事業団に就職した頃は「福祉のお仕事」というと、社会的に「慈善事業」という見られ方が強く、弱い人を助けてあげる、弱者救済的な見られ方が大きかった様に思います。ところが、現在では福祉のお仕事は専門的支援を要し、その為の資格も必要とされる職業となりました。社会情勢の変化と共に、社会福祉事業団も県の委託を受けた施設運営から民間の福祉法人となり、他の施設との厳しい競争へと漕ぎ出す事となりました。

このように、福祉に対する状況にも変化がありますが、職員の利用者さんに対する、「福祉の心」、その方に寄り添う心は、変わらないものと思えます。

平成27年度 人事異動

よみたん救護園

園長 比嘉 憲次
(沖繩療育園事務長)

名護厚生園

副園長兼管理課長 比嘉 克也
(昇任 名護厚生園管理課長)

介護課長 儀保 笑美
(昇任 名護厚生園介護員)

沖繩療育園

事務長 小橋川 務
(昇任 沖繩療育園看護課長)

看護課長 崎濱 朝枝
(昇任 うるま婦人寮看護師)

管理課長 中本 信次
(昇任 事務局出納員)

いしみなね救護園

管理課長 上里 育子
(昇任 北嶺学園生活支援員)

※()内は前職場等



平成27年度 沖縄県社会福祉事業団事業計画

(主な内容を記載)

1. 利用者に対する姿勢

①各施設の管理職は、経営理念等を深く理解し、全職員が同じ方向性を持ち業務に就けるよう職務会・職場内研修・ヒヤリング等の機会を積極的に活用し経営理念等の周知を図る。

②各施設は利用者及び家族等の自己決定に関する意見を傾聴すると共に、事業者としての説明責任を果たす。

③事務局は、各施設の苦情等の内容及び対応方法の把握を行い、全施設へ情報を発信すると共に、法人ホームページに苦情内容及びその対応策を掲載する。

④漲水学園において、第三者評価を受審する。

⑤あけぼの学園は、4月開所のグループホームと連携し施設利用者の地域移行を推進する。

⑥宮古厚生園は、機能訓練型対応通所事業所への転換を図る中で、機能訓練士配置や必要備品を整備し機能訓練や認知症予防等のサービスを充実させる。

2. 社会に対する姿勢

①具志川厚生園は、うるま市からの高齢者支援センターに向けた取り組みとして施設機能を活用し地域の高齢者相談等を実施する。

②漲水学園は、宮古島市及び関係機関

と連携し地域の生活困窮者世帯児童を対象とした学習支援を実施する。

③各施設は、提供するサービス内容について、家族等に対して原則1回説明会を開催すると共に、日常的に家族とコミュニケーションを図る姿勢を積極的に整える。

3. 人材に対する姿勢

①事務局及び各施設は、時間外勤務、有期雇用職員の期間更新等に関する責任の所在を明確にした労務管理を行うと共に、業務遂行表・業務手順書等に基づく業務を確立し、ベストプラクティス人材の育成を図り、業務負担の軽減に繋げる。

②各施設は、メンタルヘルスや腰痛防止、その他の労働災害防止策を講ずる。

③事務局は、総合的な人材マネジメント体制を構築するため、人事考課研修・中間管理者研修を実施する。

4. マネジメントに対する姿勢

①事務局は、半年毎に法令遵守委員会を開催し、各施設の取組の総括を行い、法人事業が法令遵守により遂行されるよう全施設長で情報を共有すると共に、総括結果については職員周知を図る。

②実績会議については、施設経営に資する課題をより明確に各施設が把握し、効果的な対策が決定できる会議

となるよう会議の一新を図る。

③前年度の中核職員研修の受講者から法人の在り方に関する提言及びビジョンサルトン報告書に基づく新規事業については、事務局・施設・コンサルタントが連携し、基本構想案・事業計画案等の検討を行い、事業実施に向けた取組を開始する。

④介護及び障害施設での加算取得に向け、事務局及び施設での担当者を明

確にした委員会を立ち上げ、定期的に委員会を開催し徹底した取組を行い諸加算を取得する体制を構築する。委員会での検討結果は、経営対策監会議や実績会議に反映させる。

⑤各施設の管理者は、制度改正等の動向を把握・分析し、施設内での早期の対応策を協議し、制度変革に対応できる施設方針を自ら確立する姿勢で施設経営に当たる。

平成27年度 資金収支予算書

| 勘定科目 | | 法人全体 | | | |
|-----------|--------------|-----------------|-----------------|-----------|----------|
| | | 当年度 予算額 ① | 前年度 予算額 ② | 増減 ①-② | |
| 大区分 | | | | | |
| 事業活動収支 | 収入 | 事業活動収入 | 4,026,146 | 4,042,830 | △16,684 |
| | 支出 | 事業活動支出 | 4,019,900 | 3,923,294 | 96,606 |
| | 事業活動資金収支差額 | | 6,246 | 119,536 | △113,290 |
| 施設整備等収支 | 収入 | 施設整備等収入 | 631,555 | 554,438 | 77,117 |
| | 支出 | 施設整備等支出 | 716,221 | 1,197,526 | △481,305 |
| | 施設整備等資金収支差額 | | △84,666 | △643,088 | 558,422 |
| その他の活動収支 | 収入 | その他の活動収入 | 683,157 | 414,488 | 268,669 |
| | 支出 | その他の活動支出 | 627,042 | 2,261 | 624,781 |
| | その他の活動資金収支差額 | | 56,115 | 412,227 | △356,112 |
| 予備費 | | 33,000 | 0 | 33,000 | |
| 当期資金収支差額 | | △55,305 | △111,325 | 56,020 | |
| 前期末支払資金残高 | | 635,173 | 746,498 | △111,325 | |
| 当期末支払資金残高 | | 579,868 | 635,173 | △55,305 | |